

ほがらか

ほなみだより

第91号

開設20周年記念号

令和2年4月21日

【発行元】酒田市本楯字前田 127-2

【発行者】医療法人 宏友会

グループホームほなみ

【問合せ】(0234) 91-7123

20年目の春

ほなみ開設二十周年に寄せて

早いものでほなみが開設して二十周年を迎えました。

まだ認知症対応型グループホームでの生活が認知症高齢者にとって有用性が話題になり始めた頃で、酒田市で最初に建てられました。

開設の神事が天井からの明るい日差しを受けながらほなみで執り行われたことをついこの間のように思い出します。



竣工式



十周年祝賀会



その後あちこちにグループホームが出来ましたが、二十年かけて地域に密着した生活の場としてのほなみ独自のスタイルが出来上がって来たように感じます。

これまでに、ご家族から寄せられた多大なご支援に感謝しつつ、ほなみの職員が受け継いできてくれた寄り添う介護をこれからも続けていければとスタッフ共々願っております。

理事長 矢島恭一



ほなみの支援

ほなみが開設当時から実践し、二十年積み重ねてきたケアの一つとして、食事準備や掃除、洗濯など身の回りの出来る事は自身で行って頂くように促し、できない部分を支援することで認知症状の改善を目指しています。その時々で職員の顔触れは変わりますが、そのことは変わりなく受け継がれています。今後も利用者の支援の柱として実践、継続していきます。

岸 高之



日常の支援



ご利用者の 思いと対応

認知症の方と関わる際は、ご本人の意思を尊重した関わりが大切です。

認知症による思い込みへの対応
はる子さん(仮名)は、就寝前になると部屋の中にあるソファやチェストの引き出しを移動し部屋のドアが開かないように固定します。職員が「どうしましたか?」と尋ねると、はるさんは興奮した声で「男の人が部屋に入って私の物を持って行くから、入れないようにしているのよ」と話します。

認知症の方は、現実には起こっていないことを真実だと思い込むことがあります。はる子さんの場合は男の人が部屋に入ってくると思いを込んでいると思われます。

対応として、「男の人が来ることはないですよ」などといふ否定したくなりますが、はる子さんにしてみれば自分の言っていることを信じてもらえないという気持ちは不安を強くさせるだけです。

職員は、はる子さんの気持ちを考えて話を最後まで聞いてから「男の人が来たらちゃんと帰ってもらいますから安心してください」と話しています。またドアを固定することで本人が安心されてゆっくり寝れるのであれば本人の気持ちを受け入れることが大切です。

(佐藤成子)

ぬか漬けに挑戦!



晴れた日は散歩へ
鳥海山をバックにバシャリ♪



花紙で花束作り



ひな祭りの様子



綺麗な梅の花が咲きました。



本橋保育園卒園児へ
手作りのお守りを作成

ほなみ写真館



編集後記

今年は何年にも比べ暖かく、ほなみの桜も少しづつ開花してきています。ご利用者も「咲いてきたね。」と満開を心待ちにしている様子。コロナウイルスにより外出自粛が呼び掛けられる今、こんなに近くでお花見が出来る事が何よりも嬉しく思いました。

(佐藤真奈)

お知らせ

★5月の行事について
★面会者様・ご用事のある方へ

新型コロナウイルス感染症対策として原則、面会や玄関に入る事をご遠慮いただいております。ご用事の際は、玄関扉にある呼び鈴を少し扉を開けて強く鳴らして下さい。職員が対応いたします。なお、ほなみの5月の行事も中止いたします。一時的な対応にご協力をお願い致します。

ある日のほなみ

Sさんのご家族が、初ひ孫を連れて面会に来られました。ひ孫を抱き上げ、満面の笑みで「自分の息子をあやしているのを思い出したわ。」と話しました。赤ちゃんを中心に周りを他の利用者様、職員が取り囲んで、とても朗らかな雰囲気です。笑顔一杯になりました。

(佐藤吉彦)

